

2018年度アドバンスコース活動報告



第1回「～ファーストチャレンジ～ ウェルカムクッキング」

5/20(日)

会場：子ども自然公園野外活動センター（横浜市旭区）

2018年度のスタートは、「魔法の鍋」とも呼ばれるダッチオーブンをういたクッキングからスタート。チーズケーキづくりを通して班の仲間との関係性を築くことを目指しました。初めは緊張顔も見られましたが、気が付けば「もっとかき混ぜよう!」「●●くんは混ぜるのが上手!」などの声が自然と挙がるようになりました。経験者のリーダーシップと初参加メンバーの積極性がどちらも見られ、上々のスタートとなりました!



第2回「～モノづくりチャレンジ～ 焼き板をつくろう」

6/24(日)

会場：子ども自然公園野外活動センター（横浜市旭区）

アドバンスコースの軸となる「火起こし」のスキル習得に挑戦!第4回まで毎回不可欠となる重要なスキルです。どの班、どのメンバーも火に対する意欲が高く、各々の経験値を出し合いながら「こうじゃない?」「この薪を入れよう」と試行錯誤しながら習熟を目指しました。起こした火を用いて作成したのが「焼き板」です。1枚の板から自分たちで切り分け、焦げ目やイラストにもこだわった「一点もの」が完成しました。



第3回「～スキルアップチャレンジ～ 目指せ!野外力検定制覇」

9/1(土)～2(日)

会場：川崎市青少年の家（川崎市宮前区）

第3回のキーワードは「戦略性」、「目標を達成するために、自分たちで考えて取り組む」ことが目標です。大きなチャレンジは野外力検定。ロープワークやノコギリなどのスキルテストに挑戦しました。個々のスキルはもちろんのこと「ここはこうだよ」と互いにサポートしあいながら挑み見事成功!しかし火起こし検定は全班が合格ならず。しかし考えながら取り組んだことで、たくさんの気づきや学びを得ることができました。



第4回「～テント泊チャレンジ～ 食材集めてサバイバル」

10/13(土)～14(日)

会場：野島公園キャンプ場（横浜市金沢区）

食材収穫から献立決め、2日目のスケジュール決めなどすべて自分たちでやり切る一大チャレンジ。「自分たちにとって最高の2日間」がテーマです。しかしここで全班が課題にぶつかりました。いくらやっても火が起きない！おまけに土砂降り。目標時間を大幅にオーバーしてしまうほどの大苦戦でした。しかし、これも「すべて自分たちでやり切る」ことを頑張ったからこそ。試練とたくさんの課題発見となった活動です。



第5回「～トレッキングチャレンジ～ 鷹取山登山に挑戦」

11/11(日)

会場：鷹取山（横須賀市）

キーワードは「班員全員が最後まで最高と思える活動にすること」。前回見つかった課題を踏まえ、何を意識して、どんな行動を心掛けるかをテーマに鷹取山登山に挑戦しました。各班順調に歩を進め「イイ感じ」です。アップダウンある山道も「自分たちなりの過ごし方」を見つけ、ペースを意識する班もあれば楽しみながら歩く班もありました。前回は踏まえ、互いへの意識や声掛け、働きかけがグンと成長した活動でした。



第6回「～ファイナルチャレンジ～ 30km チャレンジハイク」

1/26(土)～27(日)

会場：川崎市黒川青少年野外活動センター
～川崎市生涯学習プラザ（神奈川県川崎市）

集大成となるファイナルチャレンジ、30km 完歩を目指します。目指すは「完歩はもちろん、自分たちにとって最高の30km」にすること。序盤は快調ですが、徐々にペースも落ちていきます。しかし変わらないのは「笑いあえる雰囲気」でした。時に和ましあい、時に励ましあい、時に支えあいゴールを目指した各班。最後まで「各班らしく」歩ききり、見事全班が完歩を達成しました！



★参加者の感想



「初めてのテント泊」

ぼくが一番楽しかった回は潮干狩りです。初めてやってみてとても楽しかったし、なにしろ自分たちで採ったあさりで作った料理がとてもおいしかったからです。でもそれ以上にいんしょうにのこったことは夜にテントが水浸しになったことです。

その日はテントをたてる時は、雨が降っていませんでしたが、いざ寝る時になると雨が降り出しました。不安で眠れずにいると少し寝袋に雨がしみていることに気がつきました。大急ぎで起き上がると、隣で寝ていた仲間もしみっていたようで、二人で相談をしました。その内にもう一人起きてきて話し合い、むらじを探すことにしました。そして、むらじがよびのテントを貸してくれました。

朝になるとむらじが「あるいみあたりの場所だね」と言ってくれて、大へんだったけど、いい経験をしたんだと、少しとくをした気分になってうれしかったです。

一回目に参加をする前はとても不安でしたが、一年間仲間とのキズナを深めながらすごせたのはとても良かったです。ぼくは今年初めて参加したけど周りの仲間の去年も参加したメンバーが助けてくれて、ここまでこれたなという気がします。ぼくはここに来ると友だちが増えると思うのでまた来年は経験者となって参加して、チームを引っ張っていけるようなそんざいですごしたいです。
(小学校4年生)

「アドバンスコースでの出来事」

ぼくが2018年度のアドバンスでがんばったことは、六年生として班のみんなをまとめたことです。ぼくは最初どんな班になるかなと緊張していました。でも第一回目のクッキングの時に、失敗してもまたがんばろうと班のみんなが笑ってはげましてくれました。それから仲間の友情が深まったきがします。そして2、3、4、5回と回を重ねるごとに班の協力、そしてまた仲間の友情が深まったきがします。ついに30kmハイイクのときがきた。仲間と協力しあいゴールできたこの達成感は気持ちよかったです。ぼくが一番大変だと感じたのは第3回の野外力検定の日だ。なぜ大変だったかというと、ししゃもや野菜を入れすぎたことにより、具だらけになってしまったのだ。でも反対に見れば、仲間の協力により食べきれたのだから、仲間の協力する力がアップしたにちがいない。そうやって反対に見れば力になることもあるから、これからもやばいと思ったことがあったら反対に見ていきたい。

(小学校6年生)

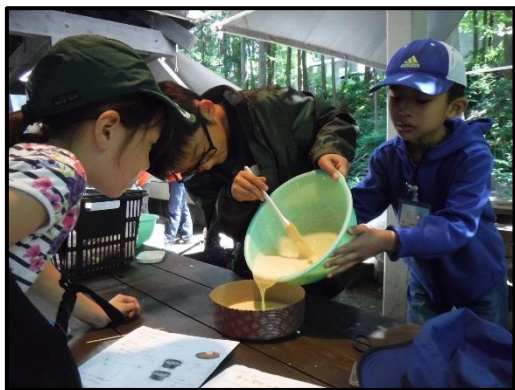
※手書きの原文を、
そのままデータ化して掲載しています。

★保護者の方の声

キャンプから帰って来た時は、いつも以上に疲れていました。それが片付けが最後になるぐらい苦戦した結果だったのかも。お陰で縁の下の力持ち？と思ってもらえる活動に繋がってとてもよい経験になったと思います。

今まで家族で何度もキャンプに行き、火起こしはしています中々身にならずにいました。でも、今回の経験で一人でしっかり出来ると思えるようになったみたいです。

(第4回 テント泊チャレンジ 小学4年生)



アドバンスコースも3年目になり、考える事や、協力など今までの活動から経験したことが生かされていて、続けて来て良かったなあと感じます。クッキングで初めて作ったチーズケーキの出来上がりはプリンのご様子だったそうですが、自分たちみんなで力を合わせて作ったおやつはきっと美味しかった事でしょう。そんな料理への興味も掻き立てられたのか、同じ材料でチーズケーキを再現しようと家で作ってくれました。(素朴な味わいでおいしかったです)

(第1回 ファーストチャレンジ 小学5年生)



★キャンプカウンセラーより

「たった6回、されど6回」

キャンプネーム：さくぱん

ありきたりですが仲間の存在の大きさを改めて感じる1年間となりました。第5回、第6回と集合時間から遅れて合流する仲間がいました。どちらも合流時にはとても不安そうな様子でしたが、迎えに来た仲間たちの顔を見た瞬間に表情がパッと明るくなったことを鮮明に覚えています。1年間でたった6回という活動ですが、「仲間」は会った回数でも、遊んだ回数でもないだと思われされました。寝食を共にし、様々な体験をすることで仲間になり、さらに火が付かない等班ごとに異なる困難を乗り越えていくことでより親密度が上がっていくことを感じる1年間でした。この1年は子どもも私も何度も心が挫けましたが、最終回で「笑っているから疲れないね！」と言い30kmの大半を走って移動するさくぱん班の仲間たちと活動できたことは私の誇りです。



「年間コースならではの温か」

キャンプネーム：よっしー

1年間を通し、同じメンバーで活動できる年間コースはたった数ヶ月でも一人一人の成長を身近に感じられる貴重な体験でした。初回は、みんな“はじめまして”なんだかぎこちないことも。回を重ねていくうちに家族のような温かく居心地の良い空間へ変わっていくのが嬉しい瞬間です。特に年間コースで好きな場面は、集合の時「初めまして」ではなく「久しぶり！元気だった？」と挨拶できること、解散の時「またいつか！」ではなく「また来月！元気でね！」とお別れできること。中には過酷なプログラムもありますが、初めは弱気な子どもたちが頼もしく変わっていく姿に心打たれることが何度もありました。うまくいかないことも、難しいことも子どもたちと一緒にワクワクドキドキのチャレンジ。子どもたちの数々の挑戦を間近で支えられるアドバンスコースが大好きです。



★ディレクターより



村中（むらじ）

「20時過ぎているのに、火すら起きていない！」「昼食食べていないけど、キャンプ場出発まであと1時間！」いずれも10月、野島公園キャンプ場での第4回の出来事です。全班がいずれかのエピソードに該当する、まさに「大ピンチ！」な状況でした。

ところが翌月、どの班も雰囲気が一変。アップダウンある山道も何のその、どの班もずっと楽しそうに歩く子どもたち。それは30kmチャレンジハイクまで続きました。

アドバンスコースは「自分たちにとって、最高の●●」を目指すことが毎回のテーマ。そのプロセスの中で、子どもたちがたどり着いた「最高のグループ」は、「同じ目標に向かい、常にみんなで笑いあえること」なのだと感じています。そこにたどり着くまでに、いくつも失敗して、何度もケンカして、そしていっぱい笑った1年間。そのすべてに拍手を送ると共に、これからの活躍を応援しています！

